

日本蜂類談話會會誌 (4)

(1948) 別刷

*Crabronids collected in 1947  
in Hokkaido.*

## 1947年採集の北海道の銀口蜂

常木 勝次

銀口蜂は北方系の蜂と考えられ、従って北海道には、種類、  
 個体数共に甚だ多い。又この蜂は同一科内の各種が非常に多様な  
 獲物を狩る点において、狩獵蜂内における異例ということが  
 出来る。筆者は特にこの蜂について追求しているが、こゝは昨  
 1947年に採集し得た種類と個体数とをあげ、併せて既に習  
 性を明らかにされたものについて概説し、同好各位の御参考は  
 供したいと思う。

尚、個体数については、普通種を少なく、稀種又は特別の目  
 的の爲のものをも多く採集するよう特に配慮が加えられている。  
 採集地は札幌近郊、定山溪、<sup>舊</sup>豊<sup>高</sup>峽、函館及びその近郊である。最後者  
 よりの採集には函館<sup>高校</sup>の教官榎方明陽君に負う所が多く、こ  
 こに謝意を表したい。

1. *Crabro (Crabro) spinipes* A. Morawitz (1866)

7 ♀♀ 16 ♂♂。各地に極めて多い。枯木中に営巣し主と  
 してメイガ科、シヤクガ科を捕える。

2. *Crabro (Crabro) Konowii* Kohl (1915)

13 ♀♀ 24 ♂♂ (中1♀ 7 ♂♂, 1♀ 2 ♂♂ は夫々1巢より飼  
 育)。各地に普通。枯木中に営巣し、ハナ<sup>ア</sup>ブ、ヒラタアブ類  
 を捕える。

3. *Crabro (Crabro) iridifrons* Pérez (1905)

3 ♀♀ 1 ♂。山地に普通であるが前2種より個体数は少な

い。♂は極めて稀、今までの記録は松村博士1、筆者2だけである。枯木に営巣、ヒラタアブ類を捕える。

4. Crabro (Clytochrysus) carifrons Thomson (1870).

8♀♀ 5♂♂, 各地に普通, 個体数は1, 2, より少ない。枯木に営巣し、ヒラタアブ、ハナバエ等を狩る。

5. Crabro (Clytochrysus) planifrons Thomson (1870).

1♀ 2♂♂, 前種と混生するが前種よりは少ない。習性は前種と全く同様。

6. Crabro (Clytochrysius) chrysostomus Lep. et Br. (1834).

6♂♂, 前二種よりやや稀, ♀は特に少ない。枯木に営巣, ヒラタアブ類を捕える。但し日本からはまだ観察されていない。

7. Crabro (Clytochrysius) nigratarsus Herr-Schaffer (1841).

15♀♀ 5♂♂, 山地には普通, 2型あって typical formは稀, f. mizuho Tsuneki は多い。習性は未知。

8. Crabro (Solenius) schlettereri Kohl (1888).

3♀♀, 本州には多いがこちらでは極めて稀, 獲物はニクバ工科, ハナバエ科及その他の小形双翅目。

9. Crabro (Solenius) larvatus Wesmael (1852).

4♀♀ 2♂♂, 当地ではむしろ稀, 採品中1♀は頭楯に真鍮色の毛をつけていた。獲物は小形<sup>双</sup>差翅類の他カゲロウ類をも狩る。

10. Crabro (Solenius) continuus Fabricius (1804)

8♀♀ 32♂♂, 各地に多産, 枯木又は管孔中に営巣, 獲物はイエバエ科, ヤドリバエ科, ナガハリバエ科, ハナバエ科等の小形双翅類。

11. Crabro (Ectemnius) dives Lep. et Br. (1834).

7 ♀♀ 5 ♂♂, 山地に珍らしくないが数は少い。子の頭楯は常に臭舘色であるが、その濃さは淡黄色から黄金色まで種々ある。従来歐洲から不完全な記録があつたが、北海道では枯木中に少数育房をもつ巢を作り、マメ、ヒメ、ヤマシロ、ホソムツモン、ヨコモン等のヒラメアゲを狩っている。

12. Crabro (Ceratocolus) heros Kohl (1915).

2 ♂♂, 定山溪 2. IX., 極めて稀, 前年は1 ♀ 2 ♂♂を同地で得た。この他の日本で得られた標本は1 ♀ 1 ♂ 松村博士(定山溪, 1912)及1 ♂ 杉原勇三氏(高地があるだけである。尚 Kohl の標本は朝鮮産の1 ♀。習性は未知であるが蛾を捕えるのではないかと思う。

13. Crabro (Ceratocolus) reiteri Kohl (1915).

6 ♀♀ 5 ♂♂, 山地平地共に居るが、稀, ♂の記載は北大紀要動物区, 4 にある。枯木中に管巢し小蛾を捕える。

14. Crabro (Ceratocolus) alatus Panzer (1797).

2 ♀♀ 2 ♂♂, 特定地域には普通, 地中に管巢し、主としてメイガ科の小蛾を捕える。1 巢内の育房数は極めて多く屡々30個以上に達する。

15. Crabro (Ceratocolus) collaris Matsumura (1912).

4 ♀♀ 10 ♂♂, 山地平地共に多い。枯木中に管巢し、メイガ科を主とする小蛾を捕える。

16. Crabro (Clypeocrabro) camelus Eversmann (1849).

4 ♀♀ 6 ♂♂, 稀である。山地よりもむしろ平地に多い。枯木中に管巢するがまだ獲物は確めていない。小蛾を狩る可能性はある。

17. Crabro (Acanthocrabro) vagabundus yamatonicus

Tsuneki (1947).

♂♀♀ 39♂♂, 極めて普通, 特に平地に多い。本種の獲物は従来の記録は成虫とも皆ガガンボ科を主とし、稀に小形のアブ等を混じるのであるが、筆者は又蛾を含むことを観察した。之については“松虫”に短報を寄せたが、その後本種の巢中より小蛾数頭を発見し、この習性を確認することが出来た。

18. Crabro (Cupho<sup>P</sup>terus) monstrosus suzuki Mats (1912)

♂♀♀ 2♂♂, 山地にいるが余り多くない。小形の双翅類を狩る。

19. Crabro (Cupho<sup>P</sup>terus) dimidiatus Fabricius (1781).

♂♀♀ 4♂♂, 定山溪、層雲峡等の山地に稀ならず発見される。朽木中に営巣し小形双翅類を捕える。

20. Crabro (Cupho<sup>P</sup>terus) aino Tsuneki (1947).

原記載は北大紀要(前出)にある。今夏は層雲峡に於て2♂♀を得た。頭楯の黄斑は1♀では極めて淡く殆ど不明である。♂は未知、習性も未知、本種は他の Crabro と遠く捕えると強く刺す。

21. Crabro (Cupho<sup>P</sup>terus) yanoi Tsuneki (1947).

1♂, 記載北大紀要(前出), 稀なる種で現在まで平地のみから発見されている。習性は不明、種名は矢野<sup>東</sup>蒼幹先生に捧げられたものである。

22. Crabro (Coelocrabro) cinxius Dahlbom (1838).

♂♀♀ 2♂♂, 稀なる種、獲物は Adlers によれば小形の双翅類、本邦よりの観察記録はない。

23. *Crabro* (*Coelocrabro*) *capitosus* Shuckard (1837).

6♀♀/♂, 前種と混棲する。欧州では多くの観察記録があるが、本邦では未発表である。ニワトコ、キイナゴ等の髄中に営巣し、オドリバエ科を主とする小形の双翅類及びキジラミ等の半翅目を捕える。

24. *Crabro* (*Coelocrabro*) *pubescens* Shuckard (1837).

18♀♀ 2/♂♂ (約半数は飼育)、多数について習性を調べたが、枯木中に窠孔し、ハナバエ科、オドリバエ科、アシナガバエ科、ユスリカ科、ノミバエ科等を狩る。

25. *Crabro* (*Coelocrabro*) *shibuyai* Iwata (1934).

8♀♀ 8♂♂, ♂の記載は北大紀要(前出)にある。ヤマウドの花に飛来するが、微小種の為に特別の注意が必要である。管孔を利用して音房を線状に配列し、オドリバエ等を狩る(栃木縣に於る視察)。

26. *Crabro* (*Coelocrabro*) *walkeri* Shuckard (1837).

1♂, 23. VI. 定山溪, 従来松村博士の採集1♂(定山溪 1904)があるだけである。Nielsenによると北欧では本種はカゲロウ類を狩り、枯木中の窠に運ぶ。

27. *Crabro* (*Coelocrabro*) *flavitarisus* Tsuneki (1947).

1♀, 之は Allotype とするべきもの、極めて稀、習性は未知。

28. *Crabro* (*Coelocrabro*) *ambiguus* Dahlbom (1842).

1♀, 日本からはまだ♂の採集記録はない。♀は筆者により9頭採られている。習性は Hamm によると小形同翅目を狩る。

29. *Crabro* (*Coelocrabro*) *barbipes* Dahlbom (1845).

7♀♀ 1♂, 極めて稀な種、習性は未知。

30. *Crabro (Coelocrabro) cetratus* Shuckard (1837).

6♀♀ 7♂♂, 山地平地共に珍らしからぬ種。特に♂は多い。  
T. J. Bold (1853)によるとアリマキを幼虫の餌に供する。

31. *Crabro (Coelocrabro) amurensis* Kohl (1915).

2♀♀ 1♂, 稀な種, 習性は未知。

32. *Crabro (Coelocrabro) sp.*

3♀♀, 札幌。1945年12/1♀を得ていたが、今回♂が採れたので新種であることが判明した。体長3mm程の微小種で稀種である。

33. *Crabro (Crossocerus) emarginatus pacificus* Gussak (1933).

7♀♀, 函館。従来ウスリー, 朝鮮及び樺太の島だけから知られていた。北海道産の標本では頬下下面の黄斑は屢々消失している。中節心形部の彫刻も強弱種々である。習性は未知。

34. *Crabro (Crossocerus) denticulatus* Herr.-Schaeffer (1841)

8♀♀ 2♂♂, 平地にいるが少い。習性は未知。

35. *Crabro (Crossocerus) uchidai* Tsuneki (1947).

7♀♀ 2♂♂, おしり稀な種。従来得た場所は全部北大構内である。種名は内田亨教授に捧げられたものである。

36. *Crabro (Crossocerus) varius* Lep. et Brullé (1834).

13♀♀ 5♂♂, 稀な種であるが各地にいる。本年多数を得たのは大雪山上で colony を発見したためである。地中に管築し、オドリバエ科を主とする小形双翅類を狩る。

37. *Crabro (Crossocerus) elongatulus* V. d. Linden (1829).

1♀, おしまへ山(函館近郊)。日本から初記録である。標本は胸部に黄斑を欠く型である。欧州で調査された所によれば、

地中に営巣し、小形の双翅類を狩る。枯木中に営巣する記録もあるが大いに疑問である。

38. Crabro (Entomognathus) brevis v. d. Linden (1829).

♀♀♀ 19♂♂♂, むしろ普通の種で特に山地に多い。  
地中に営巣し小形の双翅類を狩る。

39. Crabro (Rhopalum) clavipes (Linne, 1758).

5♂♂, 稀な種である。欧州で視察された所によるとキイチゴ等の枯茎に穿孔し、チヤタテムシ類を捕える。日本よりの記録はない。

40. Crabro (Rhopalum) calceatus Tsuneki (1947).

13♀♀ 66♂♂, 定山溪に多い普通種であるが、細少のため特別の注意を要する。習性は未知。

41. Crabro (Rhopalum) nipponicus Kohl (1915).

1 5♀♀ 38♂♂. むしろ普通の種。北海道の標本は腹部に全く赤黄斑を欠き、1型をなすものと考えられる。カ、小形のカガンボ、ユスリカ等を狩る記録がある。

42. Crabro (Rhopalum) kiesenwetteri A. Morawitz (1866).

7♀♀ 7♂♂, や、稀な種。枯芦の茎中に営巣し、チヤタテムシを狩る。習性は初記録である。

43. Crabro (Rhopalum) latronium Kohl (1915).

11♀♀ 19♂♂, 極めて普通種でいくらかでも採れる。小形双翅類を攻撃しているのを視察したが、巣、獲物とも未知である。

尚、上記の他下記の種類が北海道から知られている。

44. Crabro (Solenius-Clytochrysus) munakatai Tsuneki (1947).

45. Crabro (Ectemnius) nigrinus Herrich-Schaeffer (1841).

46. Crabro (Crossocerus) yasumatsui Tsuneki (1947)..

47. Crabro (Crossocerus) opakyrons Tsuneki (1947)

48. Crabro (Rhopalum) jessonicus Bischoff (1922)

これらは何れも稀な種類で、その習性は全く知られていない。